

## 日本応用地質学会東北支部第2回見学会見聞録

白石幸雄

日本応用地質学会東北支部主催（東北地質調査業協会協賛）による第2回見学会がさる7月1日（水）、北村信支部長（東北大名誉教授）の案内のもと、多数の参加者（総勢50名、うち女性2名）をもって行われた。

見学コースは主に山形県内で月山ダム、立谷沢断層、最上川中流堰等である。参加者はコンサル関係が多数を占めたが、岩手大や東北工大あるいは東北電力からも参加があり、にぎやかな顔ぶれであった。

とここまでは比較的まじめに書こうと思ったのですが、突然、まじめなのは報告書だけでいいのだとひらめいたので、これからは椎名誠調の正調軽簿節で書いてしまうのであります。

さて当日、宮城県庁前に集合したわれら中年（中には若い人もいたが大部分は中年以上なのであるよ）の大見学隊は、定刻8時に山交バスの人となった。

途中バスの中では、ガイドのいつもの案内を聞きつつ、また途中参加の人々を拾いつつ、さらには北村先生の講義を聞きつつ、初夏の午前は何事もなく淡々と過ぎていっ

たのである。しかし、県境を越えるあたりから、天候の具合がやややこれはいかんという感じとなってしまった。案の定、笹谷トンネルを越えるときかなりの強い雨となり、われら一行の前途に不安がよぎった。

月山ダムは曇だった。ダムサイトに着くや否や、NS系の断裂や岩派（ここだけ地質学的な表現なのでありますね）が目飛び込んできて、フーム北村先生の言ったことは本当なのだーなどと感心してしまった。月山ダムでは、建設省の調査課長みずからの説明もありハハーと恐縮してしまっただけ。本当ですよ。

いよいよ昼飯である。米の粉の滝ドライブインは何を食べてもうまいのだ。実は私は、みなさんと同じ定食の他に、立ちソバを食べてしまった。これはなぜかしみじみとうまいのである。などと言いつつ、大見学隊は一路立谷沢へと向かうのであります。

むむむ活断層はどこだ。川の水が増水していて見えないのである。中年地質屋おじさんの期待もむなしく、立谷沢断層は杳としてその姿を見せてはくれなかった。しかも、われらの落胆に追い打ちをかけるごと

く、大粒の雨に見舞われたのである。などとさんざんにいじめられ、大見学隊は最上川中流堰へと向かった。

やっこれはなんだ？最上川中流堰は巨大なゴム風船なのだ。初めてみたのだ。ついでに監査廊にまで入ったのだ。これらを案内してくれたのはナントうら若き女性なのです。建設省もいろいろ考えてるんだな、大変だななどと感心しつつ、大見学隊は雨のそぼ降る国道を帰途に着いた。

帰りのバスは、ビールと酒だった。われらは途中2箇所です。あるところでは、バスが突如わき道に進入し、酒屋の3日分の売上に匹敵するビールを買い占めたのである。さすがでありますね。これは、正しい日本の地質屋の姿を見る思いでありました。

最後に、何と言いますか、女性の作業服姿というのはなかなか似合うものなのでありますよ。

ともあれ、日頃多忙な毎日を送っている諸氏にとっては、つかの間の戦士の休息とも言いましょうか、有意義な一日ではなかったかと思えます。また、参加しよう。

(ダイヤコンサルタント様)

